

「スタッフ教育」に悩んでいる院長は、多いのではないのでしょうか。

「指示待ちではなく自分で考えて行動するスタッフを育てたいが、どうしたらよいのかわからない」「うまくいかないとき、他院ではどうしているのか」「どうしたら適材適所を実現できるのか」「スタッフの評価方法はどうすればよいのか」など、院長の悩みは尽きません。

残念ながら「これをやっておけば確実にスタッフが育つ」といった絶対的な方法論は存在しません。また、スタッフの世代が変われば、働くことに対する意識すら様変わりします。さらに、歯科医院の立地、規模、開業後の年数によっても、最適解は変わります。

そこで本書では、スタッフ教育に関する悩みを解決するヒントをできるだけ多く提供するために、1つの質問に対して3名の回答者から多種多様な意見・考えを提示する形式をとっています。いずれの回答者も、スタッフ教育に関する豊富な知見をおもちのスペシャリストですので、必ず心に響く回答が見つかるはずです。

本書は「勤務医教育」「歯科衛生士教育」「歯科助手教育」「受付教育」の構成となっており、ベテラン院長による「スタッフ教育事例紹介」も収載しています。長期にわたって役立つ情報が詰まっていますので、ぜひお手元で活用し、スタッフ教育で悩むたびに読み返してほしいと思います。

「財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すを上とする」

明治から昭和初期にかけて活躍した政治家、後藤新平の名言です。

財や仕事を遺すことも、もちろん大切ですが、それ以上に人を育てることは難しく、そして価値のあることです。だからこそ、スタッフ教育は経営者の醍醐味であり、スタッフの能力が十分に開花すれば、歯科医院はもちろん、歯科業界の大きな力になることは間違いありません。

本書が読者の皆様、そしてスタッフの皆様の飛躍の一助に繋がれば、望外の喜びです。

2021年12月

編集委員 森 昭